

第3回検討会までの振り返り及び対応方針について

1. 前回までの振り返り（第1回及び第2回からの継続検討事項）

検討会の目的とスコープ

- ✓ 今年度は農山漁村におけるインパクトの可視化までを行い、次年度以降に具体的な農山漁村の課題解決の案件形成につなげていく

ガイドライン全体について

- ✓ 訴求対象となる企業が農山漁村における課題を自分事として捉えられるよう、都市から農村にヒト・カネを送っていく重要性をガイドライン冒頭にて重点的に説明
- ✓ 自治体関係者、連携して事業を行う民間事業者、資金の出し手となる民間事業者の関係者それぞれが意義を理解しやすいガイドライン構成としていく

アクティビティ・ロジックモデルについて

- ✓ 企業版ふるさと納税の活用にあたって、企業側のインパクト創出にどのように資するかを整理予定
- ✓ 環境省や金融庁が公表しているグリーンボンド/ソーシャルボンドも参考にしつつ、そこで取り上げられている資金使途との対応関係がわかるように、整理予定
- ✓ 課題間・インパクト間のトレードオフの議論については、対応方針検討中

1. 前回までの振り返り（第3回の議論）

ガイドラインについて

✓ 全体

- ✓ 自治体と普段接していると、企業版ふるさと納税のメリットが伝わっていないと感じる。また、自治体にインパクトと言ってもイメージがつかない人が多いため、ガイドラインには事例を豊富に入れるとよい。一例としてキューピーが深谷市で体験型の農園を始めており、入社式を農園で行っているが、人材育成の観点から社員の意識付けとして非常に良かったと聞いている。【秋元委員】
- ✓ ガイドラインを最初に目にするであろう企業のサステナビリティ担当が、事業部担当や経営企画部署と連携し取り組みに繋げようとする際に、担当部署が動きやすい、拠り所としやすい内容になっていることが重要。また、企業目線から必ずしも馴染みがあるとは言えない農山漁村についての解像度を上げる必要がある。ガイドラインの最初の方で、ポンチ絵のような形で、農山漁村と都市それぞれにどのようなプレイヤーがいて、その間をつなぐ手段としてふるさと納税などを位置づけているといった関係性の理解を促す記載があるとよい。【増岡委員】
- ✓ ガイドラインの実効性という点で、多くの読み手に対して、まとめてひとつのガイドラインとするのは難しいのではないか。例えば企業にとっては自治体の予算タイミング、窓口などの情報が必要で、自治体にとっては、企業版ふるさと納税の使い方の情報が必要。こういったことを盛り込んでいくと、膨大になってしまうため、対象によって内容を切り分け、各対象に対するプレゼン用のサマリーがあると良い。【大塚委員】
- ✓ 本質的な課題を解決するために、わかりやすい形で How より Why を図式化してほしい。今年度に限らず、継続的に課題の解像度を精緻化してほしい。【平澤委員】
- ✓ 今回作ろうとしているアウトプットは性質上「ガイドライン」ではなく「ガイダンス」など別の名称がよいのではないかと。【増岡委員】

1. 前回までの振り返り（第3回の議論）

ガイドラインについて

✓ 企業版ふるさと納税のプロセス

- ✓ 弘前の例は、援農の取組を進めるに当たってサステナビリティ部門に入ってもらっているが、ブランディングにつながる話なのでマーケティング部門が推進する方が社内的にも進めやすかった。事業部が、直接的でなくとも、間接的に売り上げにつながるように話を持っていくと社内決裁も通りやすい。【佐藤参考人】
- ✓ 力のある事業部が主導すると案件が進むというのが企業の現状であり、事業部発だとビジネスにもつながる絵が描けるので、事業部主導でやることが重要であるとガイドラインに書いてもよいし、少なくともこのような企業の力学があるとフラットに情報提供する観点から書いてもよいと考える。【安部参考人】
- ✓ 企業が自治体関係者、農山漁村関係者と接点を持つとする場合のアプローチの仕方について記載があるとよい。【増岡委員】

✓ 都市から農村への資金拠出のタイプ

- ✓ 企業と自治体のつながりとしてソーシャルインパクトボンドなども選択肢の1つとして記載するとよい。【増岡委員】

✓ インパクト投資のリスト

- ✓ インパクト投資家のリストは網羅性の確保や更新が大変なので、インパクト志向金融宣言、金融庁主導のインパクトコンソーシアム、およびインパクトスタートアップ協会など、インパクト投資を行う企業・金融機関が加盟するようなイニシアチブを窓口として列挙するとよいのではないか。【増岡委員】

1. 前回までの振り返り（第3回の議論）

アクティビティ・ロジックモデルについて

- ✓ ロジックモデルについては、精緻な形というよりは、大枠を示していくことが必要。【大塚委員】
- ✓ インパクトのロジックモデルをどこまで精緻にするのかは悩ましい問題。関係者の共通理解を得るため、インパクト投資を呼び込むためなど、精度・精緻さは目的に応じた幅があってよいという点、こういう場合にはこの程度の精緻さで議論ができるのではというようなものを示すと使いやすいのではないか。【増岡委員】
- ✓ ボトルネックの5に関連して、静岡銀行が実施している御殿場市の高校生を対象とした取組を通じて、将来の関係人口が生まれてきている。地元の若者をどう絡ませるかという観点も入れてはどうか。【平塚参考人】

2. 対応方針

ガイドラインについて

- ✓ 冒頭の、都市と農村の関係性を説明する箇所にて、都市と農村のステークホルダーと、企業版ふるさと納税等のツール等がわかるようなポンチ絵を挿入。
- ✓ 冒頭に概略を入れて、ガイドライン全体の構成を提示した後に、重要な論点を前半部分に集中させ、ここを読めば読み手の行動変容につながるような内容とする。
- ✓ 名称は、「ガイドライン」ではなく「ガイダンス」とし、社会的インパクトとするか、単にインパクトとするかを検討中。
- ✓ 第4章のインパクト投資のリストについては、関係性のある連盟やコミュニティを提示する。

アクティビティ・ロジックモデルについて

- ✓ 事例についても豊富に入れて、一つのロジックモデルについて、一つの事例を紹介できるように作成中。
- ✓ 構造化マップについては、今年度は農業・農村について示すものの、アクティビティについては漁業や林業のものも対象にする。